

## 第12回ヒロシマ賞受賞作家決定について

ヒロシマ賞は、美術の分野で人類の平和に貢献した作家の業績を顕彰し、核兵器廃絶と世界恒久平和を願う「ヒロシマの心」を、美術を通して広く世界へとアピールすることを目的として、広島市が平成元年(1989年)に創設した賞で、3年に1回授与しています。

このたび、第12回ヒロシマ賞受賞作家を以下のとおり決定しました。

### 1 受賞作家

メル・チン氏 (アメリカ出身)

※略歴等は資料1及び資料2のとおり。

### 2 受賞理由

メル・チン氏は、環境問題を始めとする様々な社会問題に着想を得て、彫刻や絵画、インスタレーションなど多様な手法を取り入れたアートを創作し、その活動に地域住民を巻き込むことで、複雑な社会問題への市民意識を喚起することを探求してきたことは、ヒロシマ賞の主旨に沿うものであり、また、同氏の展覧会の開催を通じて「ヒロシマの心」を広く全世界にアピールするこことが期待されるため、今回の受賞となりました。

### 3 受賞作家決定までの経緯

- ・令和6年6月 候補作家推薦委員・特別推薦委員から、29名の候補作家が推薦される。
- ・同年6月、8月 2回にわたる選考委員会において候補作家を3名に絞り込む。
- ・同年10月 受賞者選考審議会(会長:建畠 哲 たてはた あきら 埼玉県立近代美術館館長)において、受賞候補作家としてメル・チン氏を選定する。  
受賞者選考審議会の審議結果を踏まえ、受賞作家をメル・チン氏に決定する。

### 4 今後のスケジュール

- ・令和6～7年度 第12回ヒロシマ賞受賞記念展開催準備
- ・令和8年夏～秋 第12回ヒロシマ賞授賞式及び受賞記念展(会場:広島市現代美術館)

## 受賞作家略歴等

作家名 メル・チン Mel Chin  
 出身地 アメリカ合衆国テキサス州ヒューストン  
 生年月日 1951年11月21日

### 略歴

1975 ピーボディ・カレッジ（テネシー州ナッシュビル）卒業  
 1988 国立芸術基金フェローシップ賞（アメリカ）受賞  
 2007 ペドロ・シエナ賞アニメーション部門（チリ）受賞  
 2017 S.O.U.R.C.E. (SUSTAINED OPERATIONS UTILIZING RESOURCES for CULTURE, COMMUNITIES and the ENVIRONMENT) 設立  
 2019 マッカーサー・フェローシップ賞（アメリカ）受賞  
 2021 アメリカ芸術文学アカデミー会員  
 現在 ノースカロライナ州エジプト・タウンシップ在住



Mel Chin  
 Photo: Miriam Heads  
 (撮影: ミリアム・ヘッズ)

### 主な個展

1989 ハーシュホーン博物館と彫刻の庭（ワシントンDC）  
 1990 ウォーカー・アート・センター（ミネソタ州ミネアポリス）  
 1991 メニル・コレクション（テキサス州ヒューストン）  
 2006 ステーション現代美術館（テキサス州ヒューストン）ほか  
 2014 ニューオリンズ美術館（ルイジアナ州ニューオリンズ）ほか  
 2018 クイーンズ美術館（ニューヨーク）  
 2022 マディソン現代美術館（ウィスコンシン州マディソン）

### 主なプロジェクト

1991- リヴィアイヴァル・フィールド  
 1995-98 イン・ザ・ネーム・オブ・ザ・プレース  
 2006- オペレーション・ペイダー

### 主な国際美術展

1994 ハヴァナ・ビエンナーレ  
 1997 光州ビエンナーレ  
 2001 リヨン・ビエンナーレ  
 2024 プロスペクト6 ニューオリンズ

### 〈受賞に当たってのメル・チン氏のコメント〉

この栄誉は言葉では言い尽くせません。私が、人為的気候変動による破壊に見舞われた地で暮らし、絶望の中にある無辜の民に対し残忍な爆撃が継続する現状を遠くから目撃し続けている中の受賞でした。米国市民である私は、紛れもない共犯行為を余儀なくされています。ヒロシマ賞は、この弁解の余地なき残虐行為を支持せず、加担に抗う決意を強固なものとしてくれます。さらに、複雑なアイデアや関係性を発展させ、暴力への抵抗と共感の輪の拡大に通じる理想を追求する手段とすべく全力を尽くすよう私を促してくれます。

## 【資料2：作品紹介】



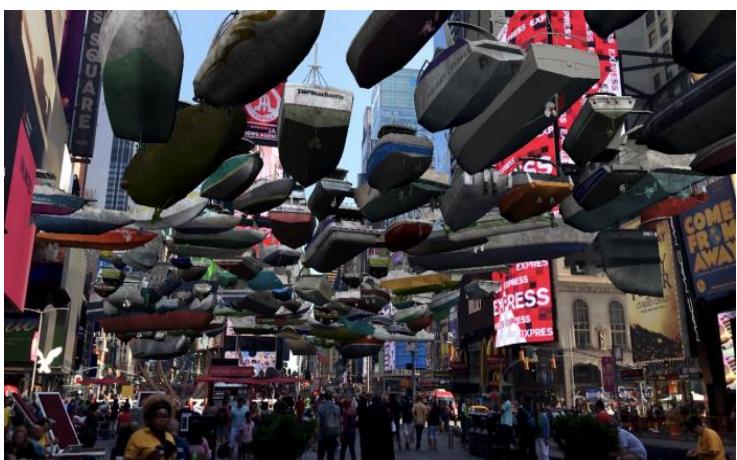
Revival Field (1991- ongoing)

有害廃棄物の埋め立て地の土壤から重金属を抽出するため、葉や茎に高い濃度で重金属を蓄積できるハイパー・アキュミレーター植物を利用して、安価でローテクな土壤汚染の浄化方法を試みる。この実験はアメリカ農務省の研究者と共同で行われ、グリーン・レメディエーション（持続可能な土壤修復）の可能性が確認された。



Safehouse (2008-2010)

ハリケーン・カトリーナ後のニューオーリンズで、土壤の鉛汚染が基準をはるかに超えていることを知り、小児期の鉛中毒を撲滅するための運動「Operation Paydirt」を開始した。この家はこの作戦のアイコンとして、Fundred Dollar Project の集会などが行われる作戦本部として機能した。



Unmoored (2018)

海面上昇によってタイムズスクエアが水没するという未来の可能性を、観客は Microsoft と共同で開発された Unmoored を使用して AR にアクセスすることによって探索することができる。

## ヒロシマ賞について

### 1 名称

(日本名) ヒロシマ賞

(英語名) HIROSHIMA ART PRIZE

### 2 主旨

美術の分野で人類の平和に最も貢献した作家の業績を顕彰することを通じて、広島市の芸術文化活動の高揚を図るとともに、核兵器廃絶と世界恒久平和を願う「ヒロシマの心」を広く全世界にアピールし、人類の繁栄に寄与する。

合わせて、この賞を受賞した作家の展覧会を開催して芸術の発展に寄与し、ヒロシマ賞の意義を高める。

### 3 目的

この賞は、次のことを目的とする。

- (1) 最初の被爆都市として世界の恒久平和の実現を願う広島市が希求するところを、現代における美術の領域においても広く世界に知らしめ、人類相互の理解の促進に努め、もって世界平和と繁栄に寄与すること。
- (2) ヒロシマの希求するところと共通する思想を、創作活動等を通じて広く全世界に表現している作家に対し授与してその業績を顕彰すること。
- (3) 作家の創作活動等功績を顕彰し、あわせて展覧会等を開催することで広くその業績を世界に紹介し、今後の美術界のより一層の促進を図ること。
- (4) 世界の平和と人類の繁栄を願う「ヒロシマの心」の意義を、美術の領域において広島市民に紹介することで、地元の美術文化の今後のより一層の発展を図ること。

### 4 展覧会の主催

主催：広島市、公益財団法人広島市文化財団

共催：朝日新聞社

### 5 ヒロシマ賞選考の基準

- (1) 美術の分野（平面、立体、映像、デザイン、建築等）で評価の高い活動を行っている個人あるいはグループ
- (2) ヒロシマの心にふさわしい創作活動を行っている個人あるいはグループ
- (3) 美術館で単独の展覧会を開催する意義がある個人あるいはグループ
- (4) 国籍・年齢は問わない。

### 6 事業内容

#### (1) 受賞候補者の選定方法

世界各地の美術館長、美術評論家等で構成する「推薦委員」と、過去の受賞者から成る「特別推薦委員」から推薦された作家等を取りまとめ、国内の美術館長、美術評論家等で構成する「選考委員会」に諮って絞り込みを行う。

その結果を基に、有識者、美術専門家等で構成する広島市ヒロシマ賞受賞者選考審議会で、受賞候補者を選定する。

## (2) 授賞式

ヒロシマ賞授賞式を行う。

## (3) 展覧会

広島市現代美術館において「ヒロシマ賞展」を開催する。

## 7 賞の内容

ヒロシマ賞 1名 (1グループ)

副賞 500万円

朝日新聞社賞 記念品

（参考）

回	受賞者	決定年度	展覧会開催期間
第1回	三宅 一生 (デザイン)	平成元年度 (1989年)	平成2年(1990年)11月3日 ～平成3年(1991年)1月15日
第2回	ロバート・ラウシェンバーグ (美術)	平成4年度 (1992年)	平成5年(1993年)11月3日 ～平成6年(1994年)1月16日
第3回	レオン・ゴラブ&ナンシー・スペロ (美術)	平成7年度 (1995年)	平成8年(1996年)7月27日 ～9月23日
第4回	クシュシトフ・ウディチコ (美術)	平成10年度 (1998年)	平成11年(1999年)7月25日 ～9月19日
第5回	ダニエル・リベスキンド (建築)	平成13年度 (2001年)	平成14年(2002年)7月28日 ～10月20日
第6回	シリン・ネシャット (美術)	平成16年度 (2004年)	平成17年(2005年)7月23日 ～10月16日
第7回	蔡國強 (美術)	平成19年度 (2007年)	平成20年(2008年)10月25日 ～平成21年(2009年)1月12日
第8回	オノ・ヨーコ (美術)	平成22年度 (2010年)	平成23年(2011年)7月30日 ～10月16日
第9回	ドリス・サルセド (美術)	平成25年度 (2013年)	平成26年(2014年)7月19日 ～10月13日
第10回	モナ・ハトウム (美術)	平成27年度 (2015年度)	平成29年(2017年)7月29日 ～10月15日
第11回	アルフレド・ジャー (美術)	平成30年度 (2018年度)	令和5年(2023年)7月22日 ～10月15日

## 広島市ヒロシマ賞受賞者選考審議会委員名簿

(五十音順・敬称略)

池田 晃治（広島商工会議所会頭）

逢坂 恵理子（国立新美術館館長）

島 敦彦（国立国際美術館館長）

千足 伸行（広島県立美術館館長）

建畠 哲（埼玉県立近代美術館館長）

寺口 淳治（広島市現代美術館館長）

福永 治（京都国立近代美術館館長）

松井 一實（広島市長）

三浦 篤（大原美術館館長）

吉田 幸弘（公立大学法人広島市立大学芸術学部学部長）

ラワンチャイクン 寿子（福岡市美術館学芸係長）